

環境研究総合推進費を活用するには

環境研究総合推進費 プログラムオフィサー
小山 次朗

担当PO略歴

- 東京水産大学（現 東京海洋大学）卒業
- 九州大学農学研究科博士課程修了 農学博士
- 日本学術振興会奨励研究員
- 栃木県公害研究所研究員
- 東海区水産研究所、中央水産研究所および瀬戸内海区水産研究所研究室長
- 鹿児島大学水産学部教授（連合農学研究科教授兼任）

主に、化学物質の環境汚染とその生態影響について研究

この間、中央環境審議会臨時委員（環境保健部会）、鹿児島県環境審議会委員、農水省検討会委員などを務める

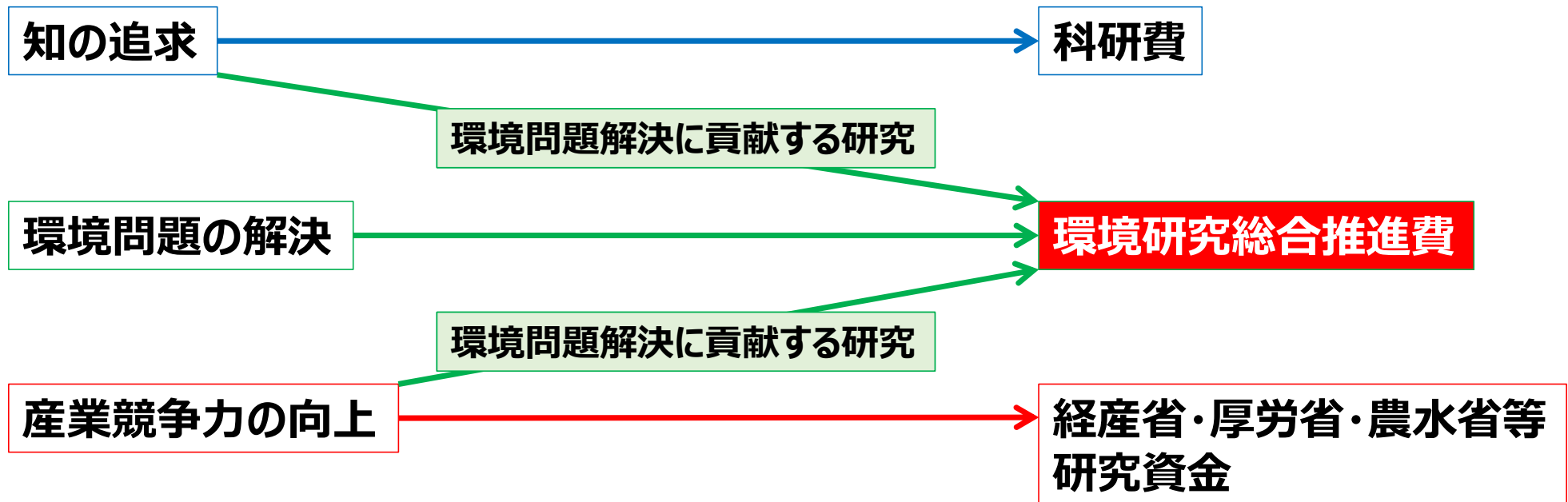
環境研究総合推進費を活用するために2つの視点が重要です

**研究プロジェクトの設計
応募するまでの申請書の組み立て方**

(申請書提出後から採択まで)

**研究開発マネジメント
採択後の研究計画の進め方**

何を研究すべきか



環境問題とはなにか

公募書類には二つの環境問題が示されています

今後5年間程度で重点的に取り組むべき環境分野の研究・技術開発

1. 領域及び取り組むべき課題の設定に関する基本的な考え方

2. **重点課題①～⑬・・・このどれかに含まれることが必須です**

- | | | |
|------------|---|------|
| (1) 統合領域 | 5 | 重点課題 |
| (2) 気候変動領域 | 3 | 重点課題 |
| (3) 資源循環領域 | 3 | 重点課題 |
| (4) 自然共生領域 | 2 | 重点課題 |
| (5) 安全確保領域 | 3 | 重点課題 |

中長期的な課題

全問題を包括、将来を見越している

5年程度毎に改訂（R7年度はR6年度改訂版で募集）

行政要請研究テーマ（行政ニーズ） 令和7年度新規課題公募において特に提案を求める
(必須ではない)

- | | | |
|------------|----|-----|
| (1) 統合領域 | 5 | テーマ |
| (2) 気候変動領域 | 4 | テーマ |
| (3) 資源循環領域 | 5 | テーマ |
| (4) 自然共生領域 | 13 | テーマ |
| (5) 安全確保領域 | 26 | テーマ |

**すぐ答えが欲しい課題
今一番困っている問題
毎年度改訂される**

参考資料：令和7年度新規課題公募要領 別添資料1:「令和7年度新規課題に対する行政要請研究テーマ（行政ニーズ）について」（令和8年度公募要領は9月頃に公表される）

推進費には二つのタイプの研究がある

→ 二つの道筋を通じた環境政策への貢献

(1) 環境問題対応型研究（一般課題）、革新型研究開発（若手枠）など

・環境政策の根拠となる科学的、基礎的知見（発見、プロセス研究、影響評価）等

(2) 環境問題対応型研究（技術実証型）、次世代事業 など

・環境問題を解決するための技術開発などの社会実装を念頭においた研究開発

・環境問題解決のための「対策技術」「適応技術」等

研究開発の社会実装のためには**(1)、(2)の複合も重要**

特に社会的側面（経済面、法律面など）の研究が必要な部分では、人文・社会科学分野までを含めた幅広い研究提案が必要、多様な分野の知見を総合的に活用



「環境・経済・社会の課題を統合的に解決」

どのような体制にすべきか

一定の採用枠設定

革新型研究開発（**若手枠**） 一人または少人数で核となる技術を開発・解決する

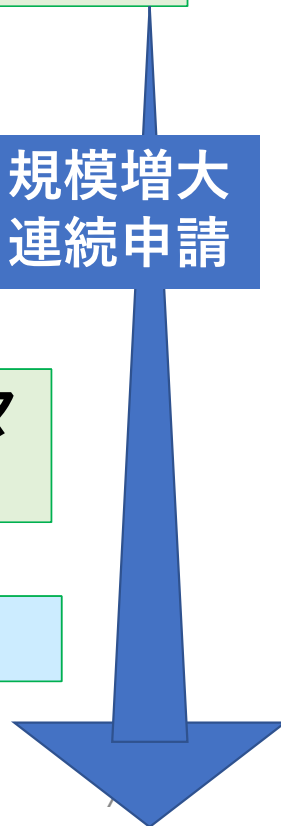
将来、分野をリードする研究（者）を育てる

環境問題対応型研究（**ミディアムファンディング**） 中間くらい

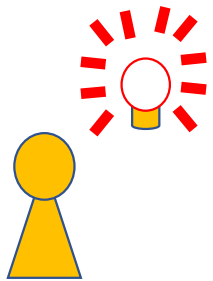
環境問題対応型研究 複数の研究機関に属する研究者が複数のサブテーマ
研究開発、研究展開、そして社会実装まで

現在の日本最高のチームを作るコンソーシアム型研究

規模増大
連続申請



革新型研究開発（若手枠）



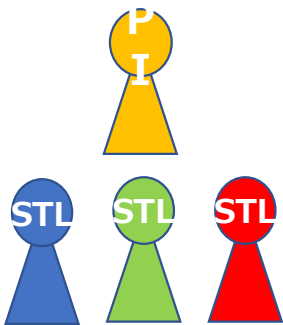
A技術を開発すれば、〇〇が解決するのではないか

研究シーズからの**ボトムアップ**、想定される**アウトカム**（研究目的）

自分の専門性、技術の将来展開への可能性を強調（夢を語る）

一人又は少人数の研究体制

環境問題対応型研究



〇〇を解決するには
A技術、B技術の開発、社会実装にはC技術が必須

アウトカム（研究目的）からの**トップダウン**で作られる体制・計画

サブ1、サブ2、サブ3にそれぞれ最高の研究者を配置して研究し、統合して〇〇を解決します

コンソーシアム型研究体制

ミディウムファンディングは両者の中間

全課題の目標達成を束ねる研究代表者のリーダーシップが重要

革新型研究開発（若手枠）に求められることは 新規性・独創性・革新性

＜革新型研究開発（若手枠）の特徴＞

- ▶ 重点課題の環境問題の解決に資する研究
- ▶ **新規性・独創性・革新性**に重点を置いた、若手研究者
- ▶ 研究期間 3 年以内、**年間研究費 6 0 0 万円**以内と**3 0 0 万円**以内の二つの申請枠
- ▶ 平成30年（2018年）度より、**一定の予算枠を設けて重点的に採択。**
- ▶ 書面審査のみで採択決定⇒**申請書でのアピールが重要**

ハイリスク・ハイリターンの研究こそ若手枠に応募してください！

人文・社会学的な研究など、多様な研究分野の応募も求めます！



ご自身の研究が環境問題を解決するのに役立つ（可能性）ことをアピール！

環境問題対応型研究 (コンソーシアム型研究体制)

日本最高のチームを作る

研究体制例



「若手枠」に加え、ミディウムファンディング枠」の活用

- ・ミディウムファンディングとは、若手枠（年間600万円以内）と環境問題対応型課題（年間4000万円以内）の**中間として位置付けられる**。研究費は年間2000万円以内で、研究の**ステップアップ**である中間的申請枠として活用しやすい。
- ・大型の組織でなく、少ないサブテーマ数で、**効率的、集中的**に環境問題対応型研究の目標達成ができる可能性がある。
- ・限られている全体予算の中で**数多くの**研究課題を採択する可能性が増大。
- ・自然科学分野だけでなく人文社会科学分野との連携あるいは人文社会科学分野単独も含めた幅広い研究分野からの応募を期待している。

応募にあたって考えていただくこと

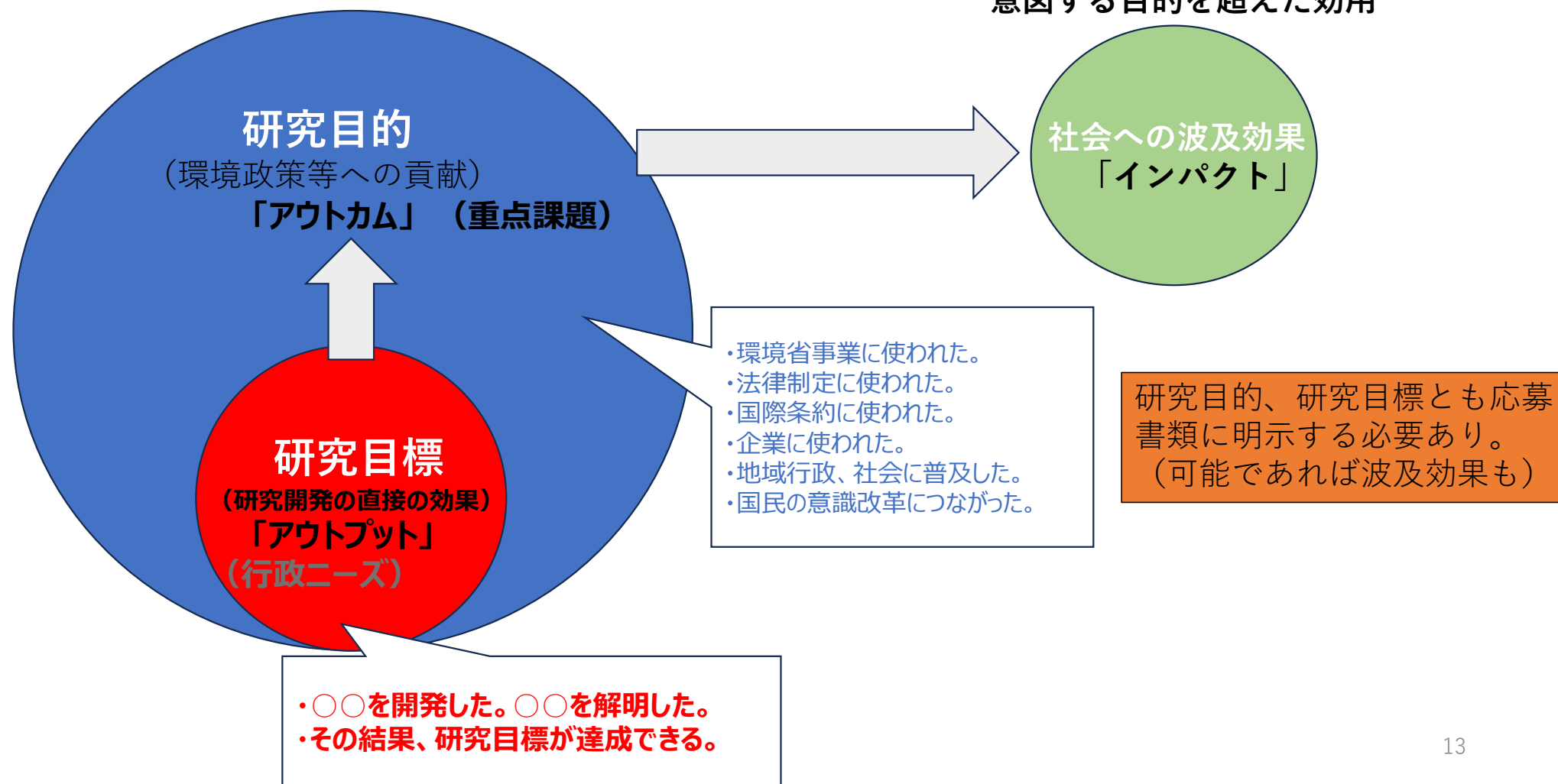
目的達成のための目標の設定

委託費であること

環境政策への関係をもう一度チェック

「アウトプット」「アウトカム」「インパクト」のイメージ

意図する目的を超えた効用



背景、目的（アウトカム）、目標（アウトプット）の関係

背景：

- ・国際条約等
- ・法律
- ・該当課題の研究開発状況（未解明部分抽出）
- ・社会情勢 熱中症 ヒグマ PFAS汚染

目的：環境政策（重点課題など）に
〇〇という問題があり、それを解決する

目標：目的達成のための第一段階として、
△△という手法で
中核技術を3年で開発する。

目的への貢献をもたらすための**研究目標の立て方**が重要となる。

サブテーマごとの研究目標が**どのような繋がり、全体目標が達成されるのか**、明確に示す。

インパクト

背景：

我が国には〇〇物質汚染がある。
〇〇物質汚染の汚染状況、ヒト健康影響、生態影響などの知見が不足している。

目的： 〇〇物質の環境汚染状況を把握し、ヒト健康影響を明らかにすることにより、効果的な汚染対策立案に貢献する。

全体目標： 3年後にまでに〇〇物質の環境汚染状況を把握する。
ヒト健康影響を明らかにする。

サブテーマ1 目標： 〇〇物質の分析手法を開発し、環境汚染状況を明らかにする。

サブテーマ2 目標： 疫学研究から〇〇物質のヒト健康影響を明らかにする。

サブテーマ3 目標： サブテーマ1 および2 の成果から、〇〇物質のヒト健康影響リスクを明らかにする。

リスクが明らかになることにより、〇〇物質の代替品が開発される。

アウトカム

アウトプット

研究目標設定における注意点

達成したかどうかかわからないと**達成度評価できない**

目標は行動の目標ではなく、**成果の目標**です。

○○について検討する。

○○に着手する。

○○を試みる。

→ ○○について検討し、**××を明らかにする。**

成果でなく、計画を目標に書くのもダメです（計画は研究計画の部分に記載）

○○を調査する。

○○を解析する。

○○を収集する。

→ ○○について調査し、**××を明らかにする。**

委託費であること

申請書を基に研究計画書を作成し、契約します。
研究計画書に書かれてあることを研究していただくような委託契約です。

研究計画書は契約なので、許可なく勝手に変更することはできません。

特に研究目標を変更することはできません。
研究代表者、サブテーマリーダーの変更は基本的にできません。

所属の変更、やむを得ない理由による計画の変更は手続きを踏めば可能です。
ライフイベントによる変更はもちろん可能です。

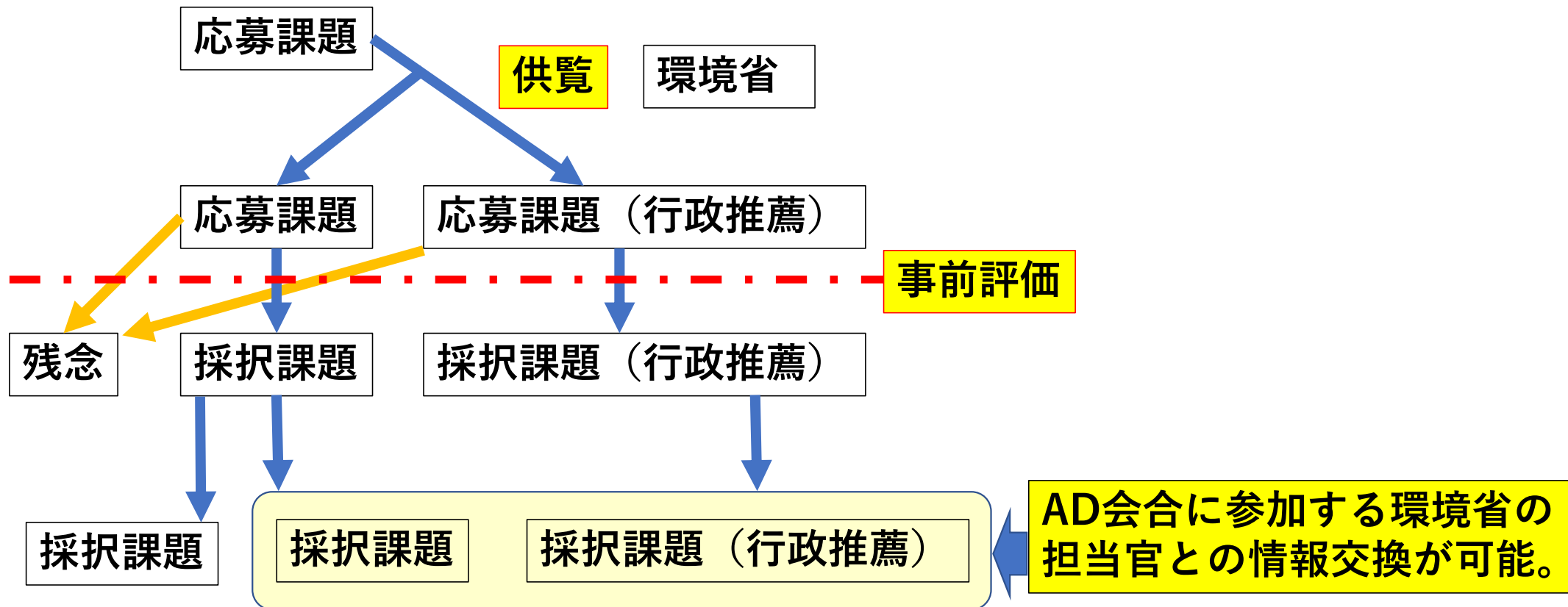
環境政策への関係をもう一度チェック

あなたの研究は重点課題のいずれかに該当していますか？

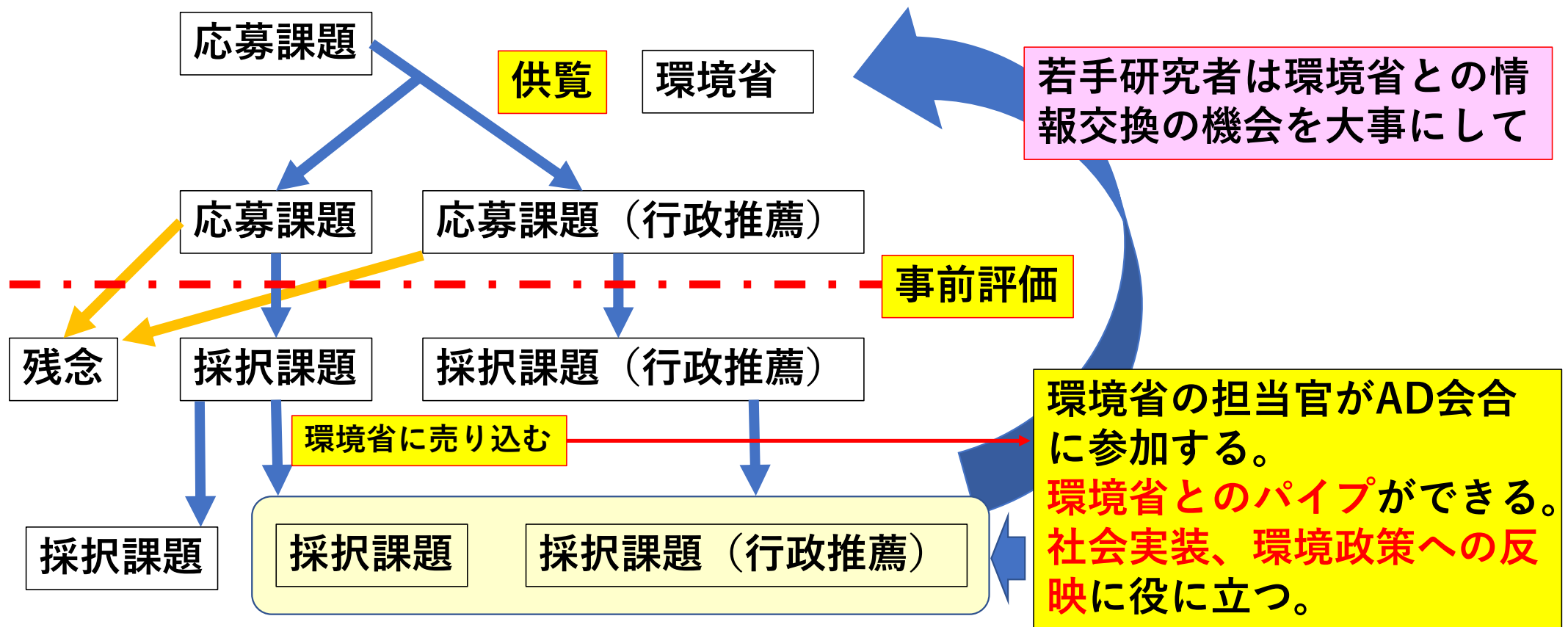
あなたの研究が採択されると環境にとってどのようないいことがあるのか、
明確に語れますか？

納税者の視点で、費用対効果も考えてみましょう。

申請後の流れ



申請後の流れ



事前評価のポイント

審査の観点

応募課題の審査は、

- ①**必要性**（環境行政上の意義、科学的・技術的意義）、
 - ②**有効性**（目標の妥当性、研究目標の達成可能性、環境政策等への貢献度、成果の波及効果）、
 - ③**効率性**（研究体制・研究計画の妥当性・研究経費の妥当性）、
- の3つの観点から総合的に行います。

なお、「**研究目標**」が内外の研究動向や技術開発動向を踏まえ、意欲的、具体的かつ明確な目標設定であるかなど、**目標設定の適切さ等についても審査**します。（令和7年度新規課題公募要領）

毎年度の研究管理

初年度当初にKO会合開催

アドバイザー、環境省担当者などによる研究推進へのアドバイス

AD会合（年1回以上開催）

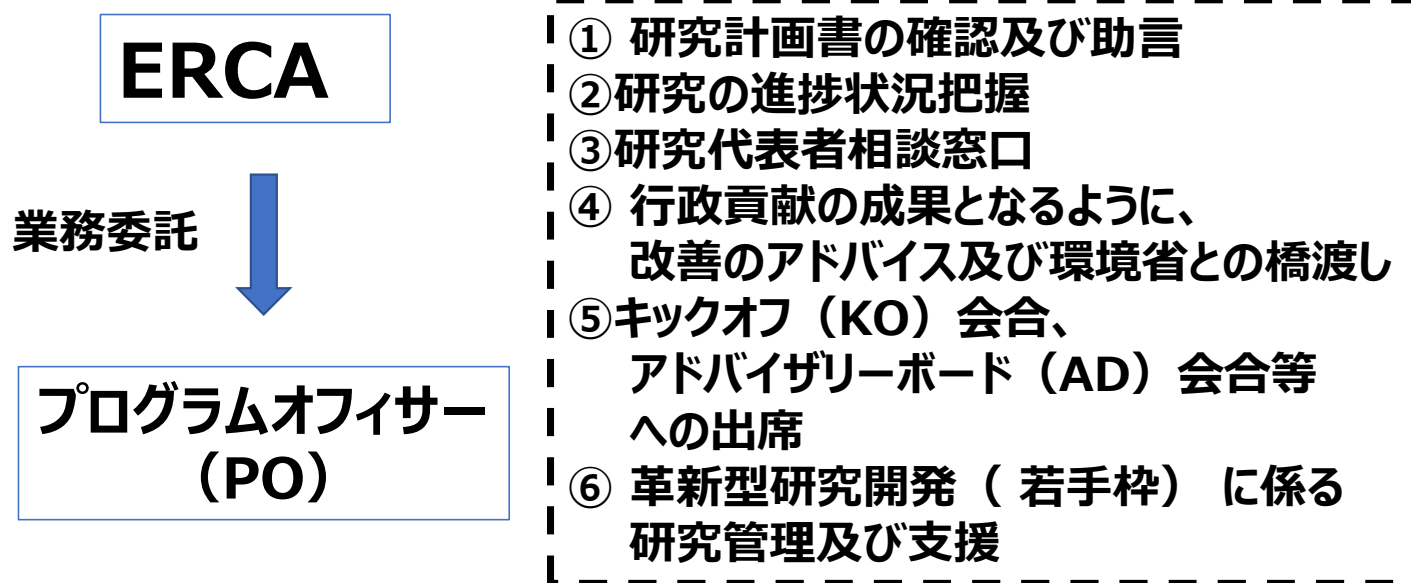
- ・進捗状況の報告
- ・研究計画に対する遅延の有無。遅延があればその原因と対処方法の相談等
- ・今後の研究の進め方の検討
- ・アドバイザー・環境省担当課室・POとの質疑応答
- ・アドバイザー環境省担当者、POの総合コメント
研究推進のための、**専門的観点、行政的観点からの有益なアドバイス**
- ・ERCA事務局からの連絡
議事録（実質議事概要）を開催後2週間以内に提出していただくよう依頼

若手枠課題は若手研究者への支援強化として自己点検シート（年1回）があります。

POの役割

▶ ERCAは、推進費の基本方針の提示や研究成果の政策への反映を行う環境省、**研究内容・進捗管理の確認、研究部会における評価結果を反映するための助言等を行うプログラムオフィサー（PO）**と連携。

POの主な業務＋臨機応変



**研究代表者の
リーダーシップのサポート
（監視役ではなくサポーター）**

若手研究者のサポート

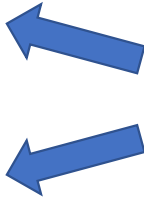
環境研究総合推進費 事務処理説明書 研究推進編（令和6年度）より

採択後の中間・事後評価のポイント

研究目標を達成するのが契約です。

中間評価：研究目標が達成できそうか？

事後評価：研究目標を達成したか？



報告書

研究目標を自己都合で変更することはできません。
申請時によくお考え下さい。

採択後、研究開始時にキックオフ会合、毎年度末にアドバイザリーボード会合を開催する。アドバイザーは仲間内から選出するのではなく、**広い視野から研究及び研究成果の環境政策への貢献等について適切に助言できる方**を選んでいただ方が有益です。

令和6年度から若手枠の評価は書類審査のみ

まずチェックして頂きたい情報源

環境再生保全機構（ERCA）ホームページ

機構ホーム> 環境研究総合推進費> 公募情報> **公募要領・応募様式等（令和7年度）**

https://www.erca.go.jp/suishinhi/koubo/r07_koubo_2.html

【公募要領】

- ・環境研究総合推進費令和**7年度**新規課題公募要領
必要なことはほぼ全て書いてある！

【別添資料】

- ・（別添資料1）令和7年度新規課題に対する行政要請研究テーマ（行政ニーズ）について

迷ったら、「研究推進ハンドブック（事務処理説明書 研究推進編）（令和7年度）」
そして、**オンライン個別相談会**をご利用ください

機構ホーム> 環境研究総合推進費> 契約情報> 研究者向け事務処理説明書・様式集（委託・補助共通）

機構ホーム> 環境研究総合推進費> 公募情報> オンライン個別相談会（通年開催中）

ご清聴ありがとうございました

参考資料

**研究開発マネジメント
(応募課題の採択後は・・・)**

研究代表者のリーダーシップ

研究代表者のリーダーシップでトップダウンの研究計画、研究体制を作る

- ・環境政策への貢献の具体的な研究目的(アウトカム)
 - 課題全体の研究目標 (アウトプット)
 - 具体的な(サブテーマの)研究目標
 - 研究計画
 - 必要な「ヒト、モノ、カネ」
 - 研究体制、予算
 - サブテーマ間の連携・全体への統合が重要(実施にあたって)

注) 一人で実施する革新型研究開発では研究目標の達成だけを考えてよい。
アウトカムはきちんと説明できれば良い。

アドバイザーの役割

アドバイザーは、当該分野や関連分野に見識があり、研究開発の全体像を俯瞰し、**広い視野から研究及び研究成果の環境政策への貢献等について適切に助言できる方**とします。原則 2 名から 4 名。

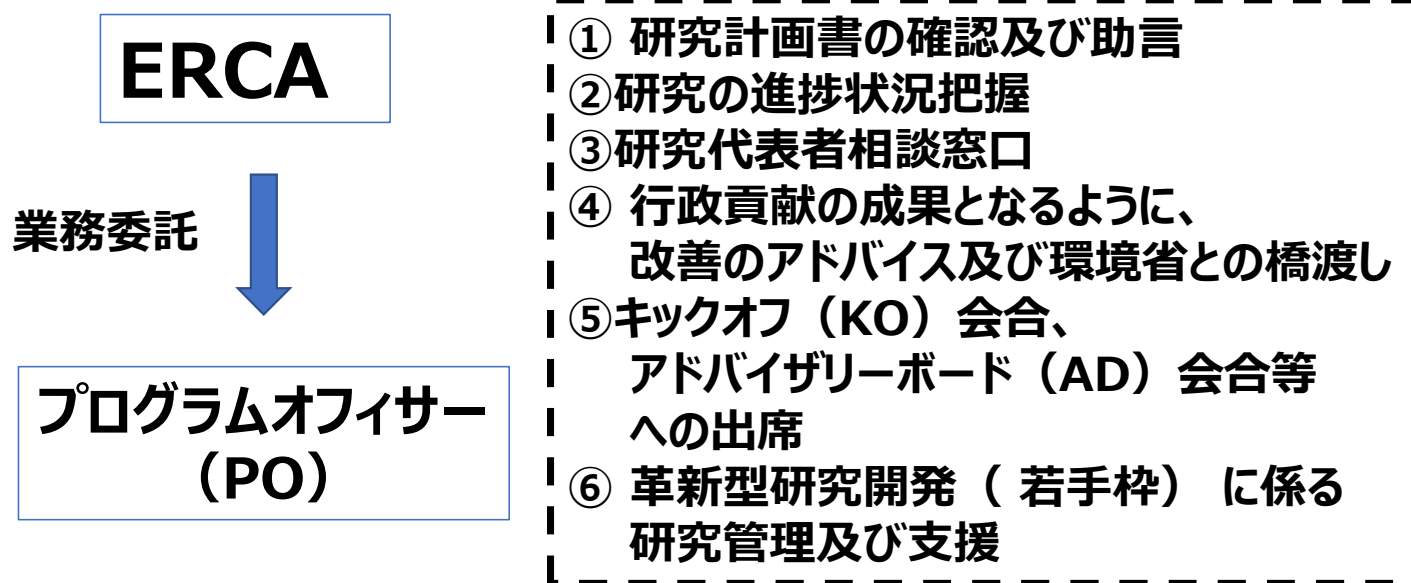
仲間内をアドバイザーにするのはもったいない！

- ・ 著名な先生
 - ・ アウトカムに関わる方（環境省職員は除く）
- など、タイプの異なるアドバイザーを選ぶのもよいでしょう。

POの役割

▶ ERCAは、推進費の基本方針の提示や研究成果の政策への反映を行う環境省、**研究内容・進捗管理の確認、研究部会における評価結果を反映するための助言等を行うプログラムオフィサー（PO）**と連携。

POの主な業務＋臨機応変

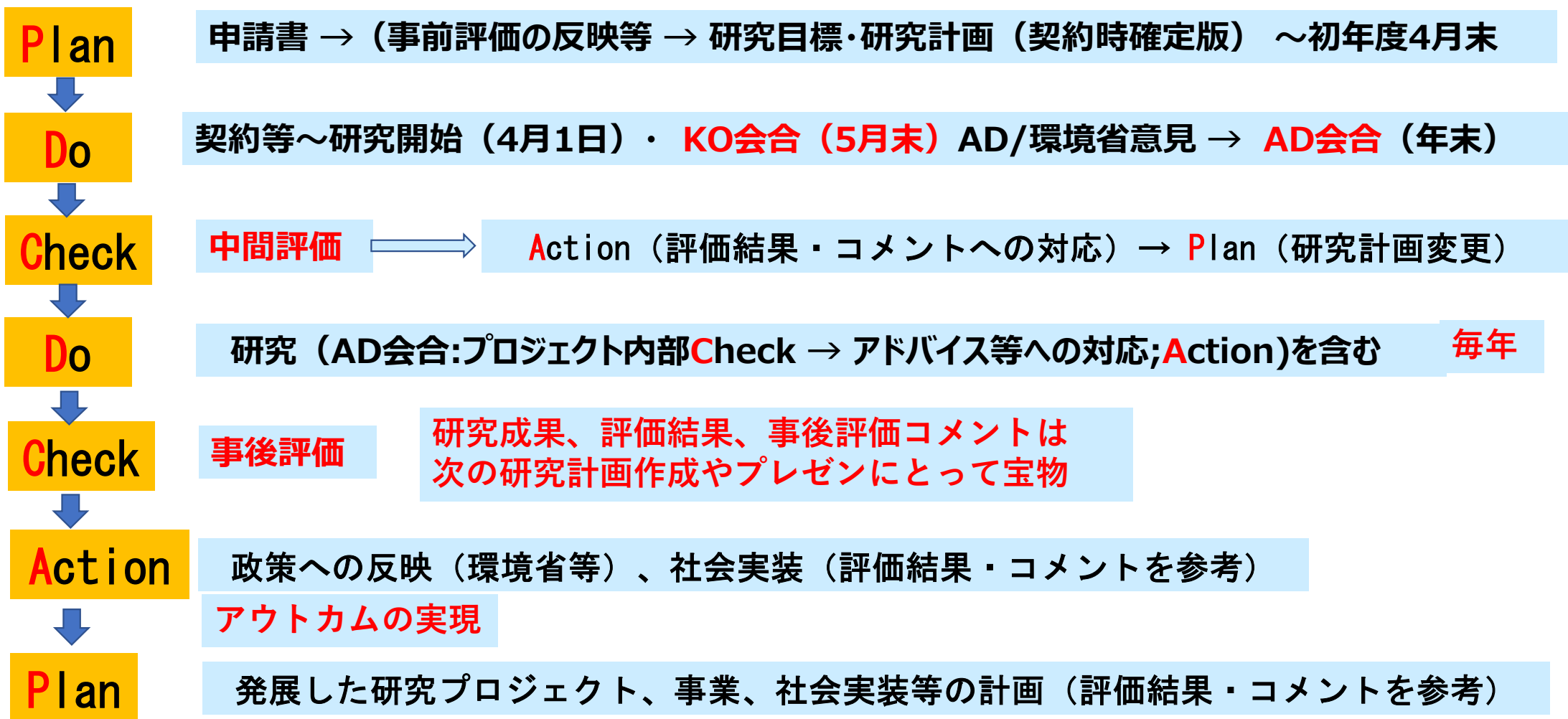


**研究代表者の
リーダーシップのサポート**

若手研究者のサポート

環境研究総合推進費 事務処理説明書 研究推進編（令和6年度）より

推進費における具体的なPlanDoCheckActionサイクル



毎年度の研究管理

AD会合（年1回以上開催）

- ・進捗状況の報告

研究計画に対する遅延の有無。遅延があればその原因と対処方法等

- ・今後の研究の進め方の検討

- ・研究者典型のための議論

- ・アドバイザー・環境省担当課室・POとの質疑応答

アドバイザーの総合コメント

環境省の総合コメント

POの総合コメント

- ・ERCA事務局からの連絡

議事録（実質議事概要）を開催後2週間以内に提出していただくよう依頼

若手枠課題は若手研究者への支援強化として自己点検シートがあります。

次のステップ

